

## 市内公共施設等に磁気誘導ループの設置を

年と共に起こってくる難聴。これを「老人性難聴」といい70才を超すと約半数がなります。難聴の為に人づきあいを避けたり、引きこもってしまうこともあります。そういうことがないように、東京都では「福祉のまちづくり条例」で「客席のあるホールの新設や改修の際には集団補聴システムの設置」を義務づけています。

国際的には、2009年9月にスイスで国際ヒヤリンググループ会議が開催され、EU諸国やアメリカ、ロシアなど23カ国の参加で行われました。具体的には、「設置統一マーク」「耳鼻科医や補聴器販売会社によるループの便利さ体験」「公共施設や交通機関でのループの普及」等の決議が行われました。この会議に日本は参加していません。

今年の6月には、アメリカ・ワシントンで第2回の国際会議が開催されます。日本の関係者の初参加こそが、日本に広くループを広げる鍵となることは明らかで、日本の参加が期待されています。

高齢化が進む中、難聴問題にどのように対応するかが課題となっているのではないのでしょうか。

### みなさん知っていますか？ 「ゆとろぎ」大ホールに磁気ループが設置。しかし、利用者は0人。

「ゆとろぎ」の大ホールの後方150席の回りに磁気ループが床の下に埋め込まれています。そして、ボックス型の補聴器が10台用意されており無料で貸し出しています。ところが、今までに一人も利用者がいません。市川議員と鈴木議員はゆとろぎ大ホールの磁気ループを視察しました。「マイクを通した声ははっきりと補聴器のイヤホンを通して鮮明に聞こえました。ループの中にいて、自分の補聴器をTに替えるだけでいいのですから市は広く市民に知らせて欲しいです」と話しています。

12月定例議会の市川議員の「市内公共施設等に磁気誘導ループの設置を」という質問に並木市長は以下のように答弁しました。  
市長 生涯学習センターゆとろぎの大ホールは既に磁気誘導ループを設置しており高齢者や聴覚障害のある利用しやすい音響設備として整備している。

#### 磁気ループとは？

聴覚障害者用の補聴器を補助する放送設備のことで、アンプにつないだリンク状の電線の周囲に発生する磁気を自分で使っている補聴器のモードをテレホンコイルという「T」に切り替え、受信機として使い、音量は自分の補聴器で調節する設備のことです。

広く市民に知らせるためには？

設置統一マークをゆとろぎに貼る



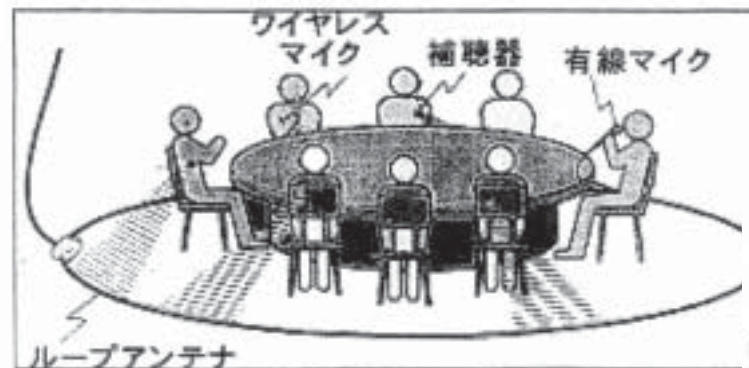
2009年9月にスイスで開かれたヒヤリング(磁気)ループ国際会議で決定されたマークです。

「ゆとろぎ」のパンフレットにループがあることを明記する。

あきる野市にある「秋川ふれあいセンター」の利用案内には「聴覚障がい者のための磁気ループシステムがありますのでご利用を希望される方はお申し出下さい」と書かれています。

「ゆとろぎ」の施設の中に「磁気ループ」ご案内チラシを置く。

広報で知らせる。



ヒヤリング(磁気)ループのしくみ(台東区「磁気ループのご案内」から)

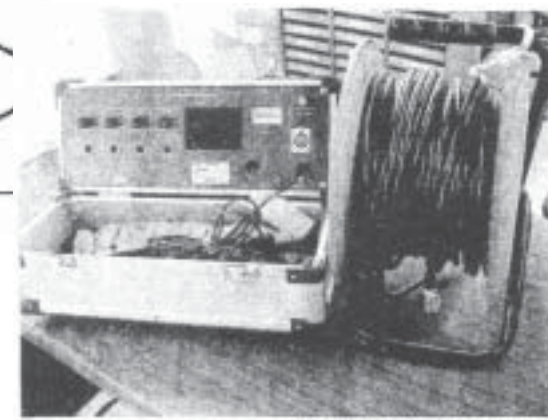
## コミセン・いこいの里にも設置を！

簡単な磁気ループと受信機はないの？

実は可搬型の磁気ループと受信機があります。他の公共施設、特にコミュニティセンターやいこいの里にはすぐにでも設置すべきですが設置できるまで「可搬型のループ」を使用することを考えるべきです。60ワットのアンプで30万円程度で購入出来ます。

台東区では去年の10月から可搬型磁気ループと受信機を区の施設に貸し出し、区の主催の行事でも積極的に活用しています。区の担当者は「区の施設に、磁気ループのご案内のチラシを置いているが、大変役立つことを区民のみなさんに知っていただく為に努力したい」と言います。

市川議員の以上のような再質問に対し、市長は「他の公共施設に設置していくことは、施設の大規模改修等に合わせ、検討していく」と答えました。



台東区が区の施設に貸し出しているループ(右)とアンプ